６の３　　情報教育学習指導案（音楽）

６月２９日（金）４限　第１音

授業者　今　井　直　人

１　題材名　すてきなハーモニー　～楽譜から音楽へ～

２　本題材における知識創造

音符や記号で示されたことに気をつけながら　それぞれの感じ方を活かして表現を工夫したり楽譜に書かれたことや表現の工夫を意識して鑑賞したりしようとする

音楽は，同じ楽譜をもとに演奏されたとしても，人によって表現の仕方に必ず違いが表れる。それは，楽譜が，実際の音楽として演奏される時の約束であると同時に，表現しようとする者によって感じたことや考えたことが付加されるからである。また聴き手になったときは，それぞれの感じ取り方によって，時には共感的に，時には批判的に鑑賞することになる。

子どもが教科書の教材曲を演奏しようとする場合でも同じである。楽譜には，音そのものはもちろん，曲の構造や楽器の編成といった音楽のつくり，速度，強弱，表情づけといった表現方法など，多くの情報が示されているが，一人一人の感覚や読み取り，そして技能によって，同じ曲でも表現の仕方は，細部まで注意すれば必ず違うものである。

本題材の表現活動では，クリーゲルの「メヌエット」で，明快で美しいリコーダーの響きを味わわせ，また鑑賞活動ではゲストティーチャーの話やオーケストラの楽譜にふれさせる。そのような場合にメディア機器を活用して，音や楽譜を効率よく提示できるようにしておき，楽譜に興味・関心を持たせる。そして「楽譜に書かれたこと」と「楽譜に書かれていない自分の表現」両方を意識させるようにし，またそれを聴き合うことで表現や鑑賞の仕方の改善につなげていく。

３　「かかわり」を活性化するために

⑴　本題材における「かかわり」の活性化

- 楽譜に注目しながら，記された記号の読み取りや発想したことを交流しようとしている
- 一人一人の読み取り方の違いや感じ方の違い，表現の違いを意識的に聴き取り，その意図やよさを自らの表現に活かそうとしている

⑵　本題材における「かかわり」を活性化する手だて

ここで扱う情報は，楽譜そのもの，またはメディア機器等を利用して焦点化して提示された楽譜や音，音楽である。それらを，次の二つの視点から「かかわり」の活性化の手だての中で扱う。

ア．「情報」の視点での授業設計

音楽は，子どもが単に階名を読んで演奏することで完結するものではない。まず一人一人が曲のイメージをつかむ。練習では楽譜に記されていながら見逃しがちな，あるいは気付いていても演奏に活かせなかったりしている強弱やアーティキュレーションなどを意識させる。そして自分なりの感じ方や他者との交流で得たことなどを反映させながら，それを聴き手に伝えようという相手意識を持って演奏したり聴いたりさせる。

こうした言わば解釈，熟考を経て，その子なりの表現に結びつくような学習の流れを組み立てる。

イ．メディアの効果的な活用

メディアの活用によって期待できる手だては，楽譜に書かれたことを情報として共有すること，そして特に鑑賞において，演奏（音・映像）と楽譜を結びつけることである。

この学習ではプロジェクターや拡大プリンターを活用して楽譜や資料映像を大写しにすることで，楽譜の読み取りや表現の仕方の検討をしやすくする。これにより楽曲と子どもが近づくだけでなく，読み取ったことや感じたことを他者と交流しやすくなり，活性化を助けるであろう。

４　学習計画（総時数８時間）

主な活動と内容	「かかわり」の活性化の手だて	メディアの利用とその意図
１　課題を見つけや学習の見通しを立てながら「メヌエット」を練習する ○難しい箇所をとりあげて練習する ・　高い音や#ソがむずかしいよ ・　トリルにチャレンジするぞ ○「メヌエット」を演奏してリコーダーのハーモニーを楽しむ ・　アルトリコーダーも加わると響きが美しくなるね ・　正確にあわせると美しい短調のハーモニーになるよ	想起 高音域の響きや運指などに注目して範奏を注意深く聴かせるようにする。そして単純で美しい旋律に憧れを持たせながら，練習の課題を明確に意識させる。 表出・共有 楽器の選択や音の入れ替えなどをゆるやかにして，いろいろな変化をあたえ，判断させる。	
２　「展覧会の絵」のピアノ版，管弦楽版によるハーモニーの違いを聴き比べ感じたことを交流する ○音や映像に注目しながら聴く ・　オーケストラは迫力があるね ・　ピアノでもいろいろな響きが出せるよ 響きのひみつを楽譜からみつけよう ○ピアノ譜とオーケストラのスコアを見比べてわかったことを話し合う ・　私たちの楽譜よりすごく複雑だ ・　どちらも音符のほかにいろいろな記号があるぞ ・　いろいろな響きがつくられるわけがわかったよ	想起・表出 単音で始まる有名な冒頭部分と，もっともダイナミックな終曲を，最初は音だけで，あとには映像も使って聴き比べ，印象を話し合わせる。 共有・結合 楽譜を提示し，音の厚みや楽器編成など，視聴して感じたことを関連付けしやすいようにする。	映像による鑑賞は，楽器や演奏の様子など多くの情報を与えてくれる。しかし，響きそのものに注意させてから課題に迫ることができるように，メディアの利用を段階的に組み立てる。 ①　ＣＤで音に集中する。 ②　ＤＶＤで演奏の様子を視聴し，補助的な情報を得る。 ③　楽譜をプロジェクターで大写しにし①②で得た情報をより明確につかむことができるようにする。
３　オーケストラの奏者に話を聞く 楽譜がどのようにして実際の音楽になっていくのだろう ○スコア，パート譜，ピアノ譜などいろいろな楽譜を知る ・　指揮者によって演奏の仕方が変わることもあるんだ ○実際の演奏を聴き，違いを感じ取る ・　弾き方がかわると表情も変わるよ ・　人によっても演奏の仕方がちがうんだね	想起・表出・共有・結合 プロの演奏家による生きた音や解説，アドバイスをもとに，日頃の学習であまり意識したことのない楽譜の見方や思いの表出の仕方に気づかせる。 また同じ曲でも人によって表現の仕方が異なることを肯定的にとらえさせるようにする。	資料としてのプロが実際に使っている各種楽譜を大写しにする。 これにゲストティーチャー（プロ奏者）による生の演奏・解説をあわせることで，楽譜と音，弾き手と聴き手のつながりを実感させる。
４　作曲家の自筆譜から　楽譜の面白さや大切さについて話し合う 手書きの楽譜から感じ取ろう ○校歌の自筆譜を見て話し合う ・　私たちの学校の大切なものだよ ○ベートーベンの自筆譜を見て話し合う ・　考えたり悩んだりしたのかな。書き直した跡があるよ	想起・表出 校歌や名曲などの手書き楽譜を紹介し，歌ったり鑑賞したりしながら，それが今日音になっている過程に思いをはせることができるようにさせたい。	校歌の原本やベートーベンの自筆譜（複写製本）を大写しにして見やすく紹介する。 そして作曲者と表現者のつながりだけではなく，それを介して表現する側と鑑賞する側がつながっていることを実感させる。
５　「メヌエット」の楽譜にもどり，アンサンブルを仕上げる **自分たちなりの表現を工夫しより美しい演奏に仕上げよう** **・　スラーや強弱なども意識しよう** **・　自分たちにできる工夫を考えよう** **・　お互いの演奏を聴き合おう**	**共有・結合** **演奏グループで話し合ったり，楽譜に表現しようとすることを書き込んだりして，練習をつづけてきた楽曲を見直し，練習に活かすようにさせる。**	**既知のテキスト（楽譜）にあらためて自分なりの思いで向き合う。** **また書き込みなどでその子どもなりの思いの表れた楽譜も紹介する。**

５　本時の学習（８／８時）

⑴　**めざす知識創造**　・楽譜をもとに他者の思いや感じ方とも交流して，クリーゲルの「メヌエット」の自分なりの表現の仕方を見つける。

⑵　**展　開**

主な活動と内容	時	「かかわり」の活性化とその手だて	メディアの利用とその意図
1　今月の歌をうたったり，リコーダーのウォーミングアップをしたりして，学習の雰囲気を作る ・「雨にぬれても」はきょうでおしまいだ ・「メヌエット」の一部分を使って音出ししよう ・好きな吹き方はあったかな	7	想起 曲中のフレーズを使いながらタンギングや息遣いをチェックできるような音出しをして，ここまでの学習やこれから表現しようとすることを意識しやすいようにする。	プロジェクターとスクリーンで楽譜や資料を提示できるようにしておき，楽譜と音を視覚と聴覚の両面から認識しやすいようにしておく。
2　課題と活動の見通しをつかむ 自分たちなりの表現を工夫しより美しい演奏に仕上げよう	3		
3　グループで練習する ・強弱など書かれていることを正確に表現しよう ・楽譜に書かれていなくても，考えたり工夫したりしたことは書き込んでおこう ・グループで演奏する時には，吹き方を一人一人がそろえないといけないね	15	表出・共有 同じスタートラインに立って表現の仕方について考えを交流できるように新しく楽譜を用意する。 また表現しようとすることが明確化できるように自由に書き込ませる。	ＯＨＣ（オーバーヘッドカメラ）で使って子どもが書き込んだ楽譜を大写しにできるようにする。 それにより，子どもが意図したことや楽譜に書かれた思いを即応的にかつ見やすく紹介でき，音と楽譜とを結びつけて批評，共感したり，自らの表現の参考にしたりしやすくなる。
4　発表を聴き，評価し合う ・細かなところまで正しく演奏できていたよ。 ・ぴったりそろわないと，なかなか伝わりにくいね ・繰り返しの時の強弱の工夫は，わたしたちは気付かなかった	10	また練習や発表の途中で，記号や言葉で考えたことを書き込んだ楽譜やその演奏を適宜紹介することで，自らの表現の見直しや確立を助ける。	
5　学習全体をふり返りまとめる ・気持ちや考えをもいれて演奏できたよ ・同じ曲でも表情のつけ方がいろいろ工夫できるんだね 楽譜をもとに，その人なりの思いで演奏することが大切だね	10	結合 以前の吹き方を思い出させたり，階名だけを書き込んだ教科書を比較提示したりして，学習の成果に気付かせたりさせたり，他者の表現と自分の表現を対比させたりしながら，ふり返りをさせる。	

クリーゲルのメヌエット

６年〉 〉 組〉 名前〉

１　演奏する時に気をつけるところや，自分たちの工夫する部分がわかるように書き込みましょう。

２　上の楽譜をもとに，「クリーゲルのメヌエット」を演奏したり，友達の演奏を聴いたりした感想を書きましょう。